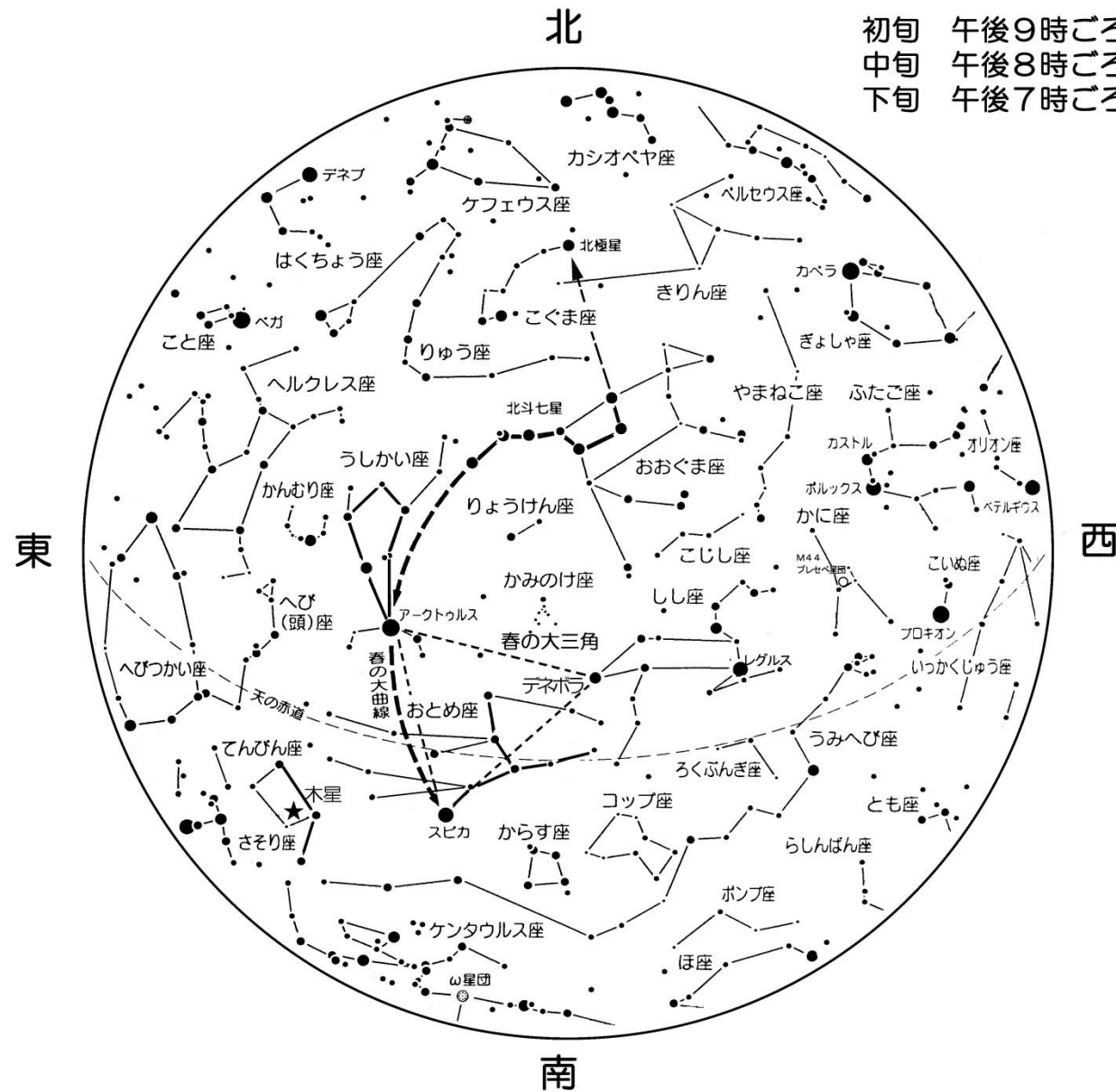


平成30年 5月の星空さんぽ☆ガイド

～ほしを眺めてみませんか～



初旬 午後9時ごろ
中旬 午後8時ごろ
下旬 午後7時ごろ

★5月の星空案内

今月の星空では、まず北の空の7つの星でできる「スプーン」のような星の並び、北斗七星を見つけましょう。この北斗七星はおおぐま座の一部です。北斗七星の「スプーン」の持ち手のカーブを南へ延ばしていくと、オレンジ色の1等星アークトゥルス、さらに延ばすと、白色の1等星スピカが見つかります。北斗七星 → アークトゥルス → スピカまでのカーブを『春の大曲線』といいます。そこから、春の星座を見つけることができます。うしかい座はアークトゥルスから「ネクタイ」のような星の並びが目印、おとめ座はスピカから「アルファベットのyの字」の星の並びが目印です。アークトゥルスとスピカ、2等星のデネボラを結んでできる三角形を「春の大三角」といいます。デネボラは「ししのしっぽ」という意味で、ここにあるのがしし座です。さらにスピカから南東に目を移すと、てんびん座があります。てんびん座は「く」の字を逆にした形が目印ですが、あまり明るい星はありません。今月はてんびん座あたりで木星が輝いているので、木星をたよりに探すと良いでしょう。

< 現在見える惑星 >

水星(-0.4等前後):うお座→おうし座付近	観測に適さない。
金星(-4.0等前後):おうし座→ふたご座付近	日の入り前、西の空でひととき明るく輝く。
火星(-0.7等前後):いて座→やぎ座付近	夜明け前、南の空で赤っぽく輝く。
木星(-2.5等前後):てんびん座付近	真夜中、南の空で輝く。一晩中見える。
土星(0.3等前後):いて座付近	夜明け前、南の空で輝く。

注目の天文現象 ～見頃を迎えた木星を見てみよう!～

宵の明星の金星が西の空に沈む頃、東の空からひととき明るい星が昇ってきます。5月9日に衝(しょう)となる太陽系最大の惑星、木星です。衝(しょう)とは、地球から見て惑星が太陽のちょうど反対側に来るときのことを言います。衝(しょう)の時は、一晩中見ることができ、地球からの距離も近いので、いつも以上に大きく明るく輝いています。

肉眼でも十分楽しむことはできますが、望遠鏡で見ると、木星の特徴である縞模様や、目玉のような形の大赤斑を楽しむことができます。この大赤斑は、300年以上も続く巨大台風です。しかし、近年その大きさは小さくなり、輪郭もはっきりしなくなってきました。いつかは消滅するかも知れない大赤斑。今のうちに、この模様を楽しんではいかがでしょうか。

日	曜	天文現象	日	曜	天文現象
5	土	立夏【暦の上では夏の始まり】(22:25)	15	火	● 新月 (20:48)
8	火	☾ 下弦 (11:09)	22	火	☽ 上弦 (12:49)
9	水	木星が衝:観望の好期(17:36)	29	火	○ 満月 (23:20)